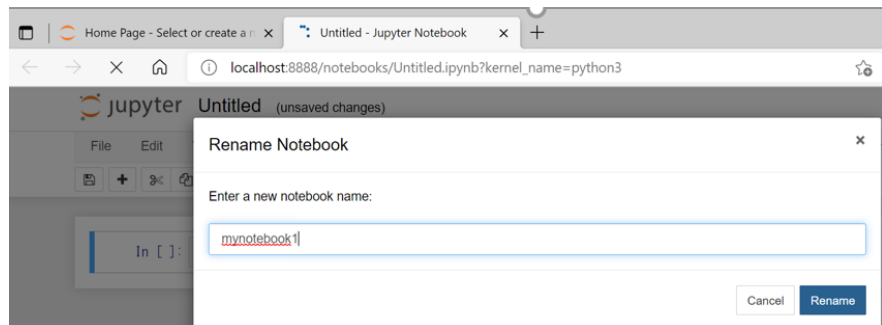
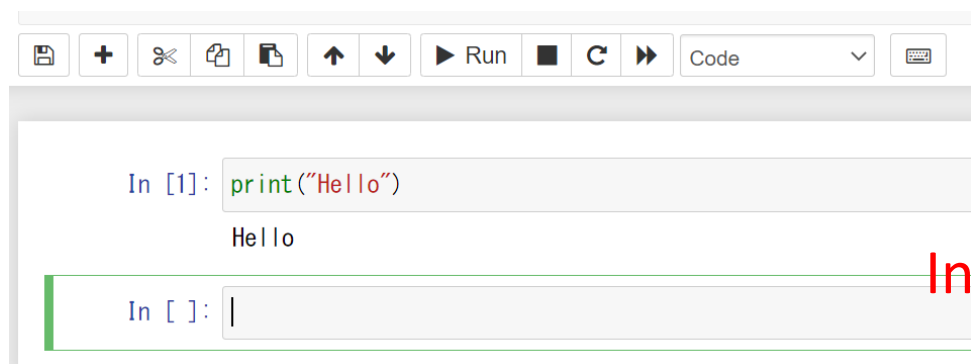


Markdownの使い方

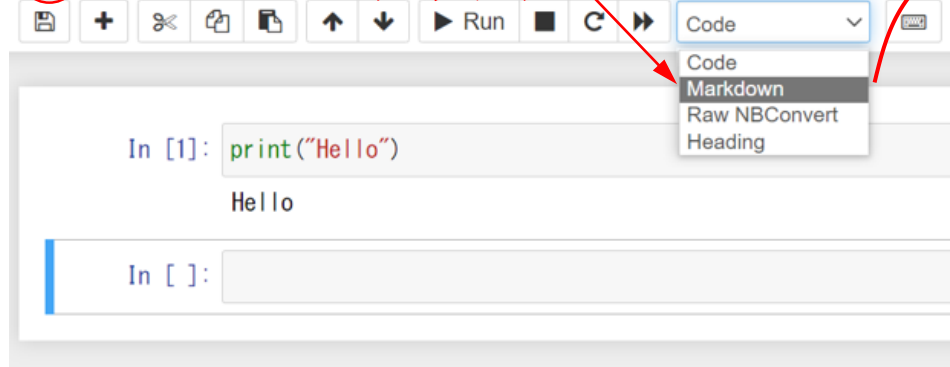
①ファイル名設定



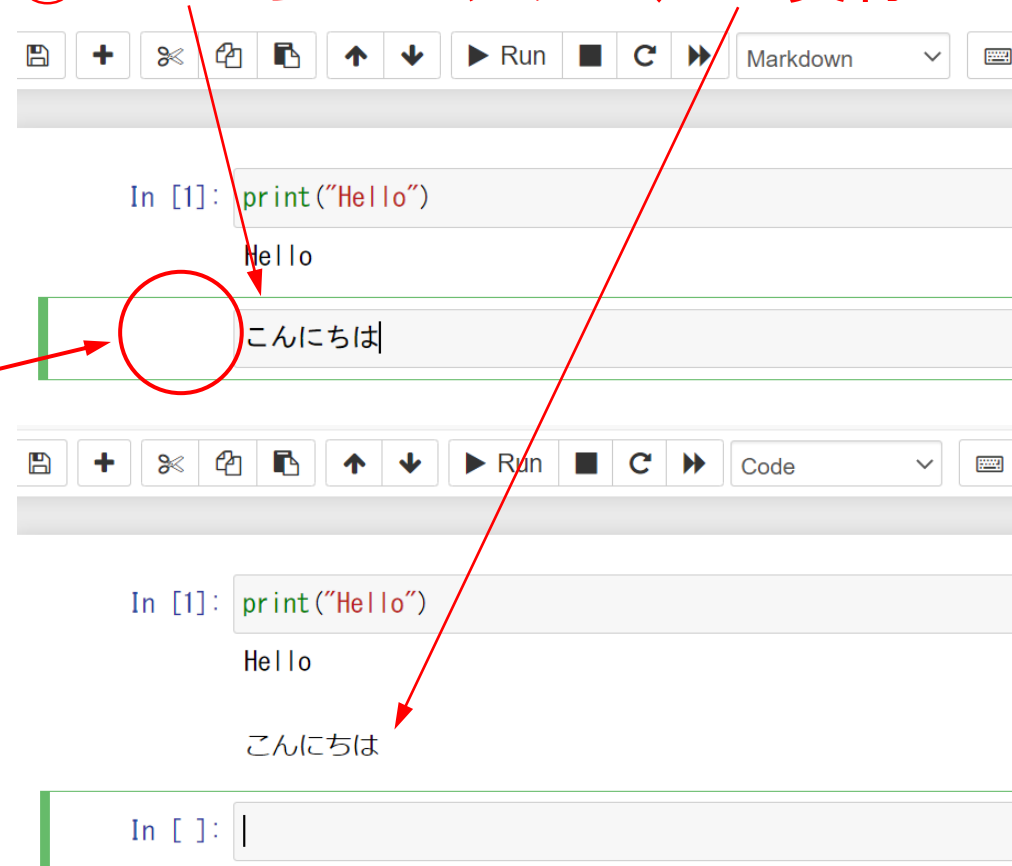
②pythonで print("Hello")を入力後、Runを実行



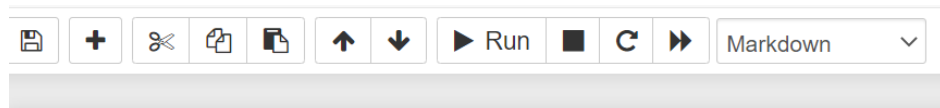
③Markdownクリック



④こんにちは と入力し、Run実行



In[]が消える



In [2]: `print("Hello")`

Hello

```
# こんにちは
## こんにちは
### こんにちは
...
##### こんにちは
```



In [2]: `print("Hello")`

Hello

こんにちは

こんにちは

こんにちは

...

こんにちは

In []: |

実行結果

文字スタイル設定

#が1つ ← レベルの高い見出し

*(または_)1つ ← イタリック

** (または_)で挟む ← 太字

*** (または_)で挟む ← イタリック&太字



仕切り線

①このノートブックのファイルがあるフォルダ内に
画像データを入れておく

②CodeをMarkdownにして
!`[ ](富士山.jpg " ")` と入力

③Runをクリックする

```
![ ](富士山.jpg " ")
```

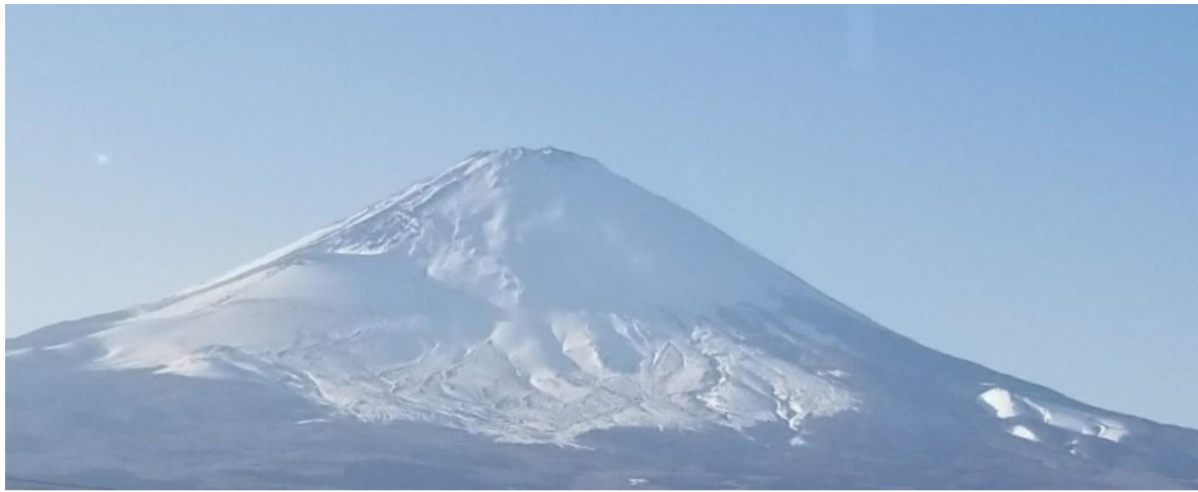
In []:

画像に変換
実行結果

こんにちは

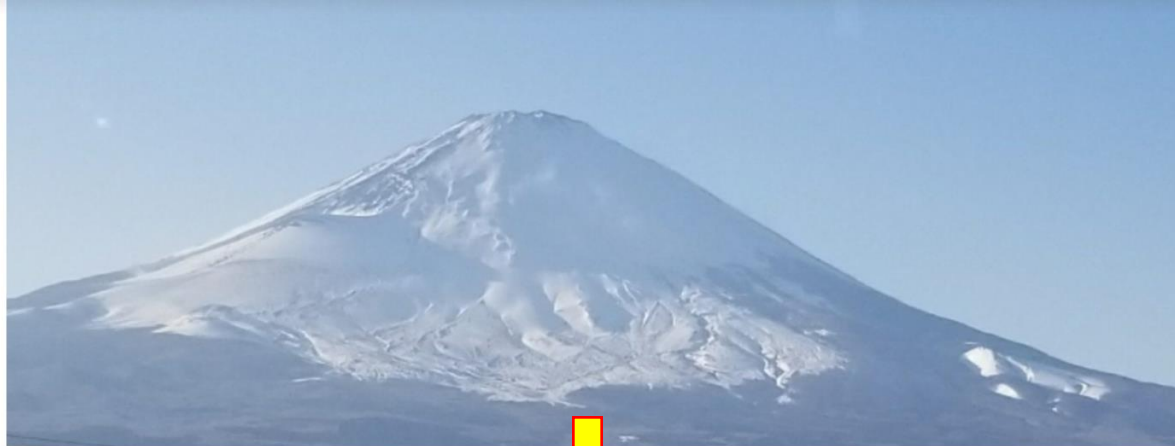


In []:



サイズを縮小して表示する|

 と入力してRun実行



<image>はHTMLのタグ利用



サイズを縮小して



表示する

サイズ変更の実行結果

In []: |

箇条書きリスト

* テキスト

半角空ける

- + 最初の項目
 - + 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - + 内部の項目その2
- + 次の項目
 - + 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - + 内部の項目その2

- + |最初の項目
 - + 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - + 内部の項目その2
- + 次の項目
 - + 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - + 内部の項目その2

実行結果

- 最初の項目
 - 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - 内部の項目その2
- 次の項目
 - 内部の項目
 - 更に内部の項目
 - 内部の項目その2

- 1. 最初の項目
- 1. 次の項目
- 1. 最後の項目



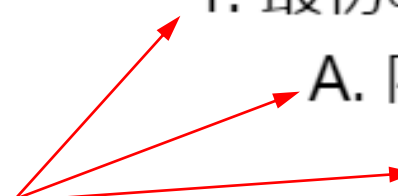
- 1. 最初の項目
- 2. 次の項目
- 3. 最後の項目

順番は、HTMLの表示と同様

- 1. 最初の項目
 - 1. 内部の項目
 - 1. 更に内部の項目
 - 1. 内部の項目その2
- 1. 次の項目
 - 1. 内部の項目
 - 1. 内部の項目その2



- 1. 最初の項目
 - A. 内部の項目
 - a. 更に内部の項目
 - B. 内部の項目その2
- 2. 次の項目
 - A. 内部の項目
 - B. 内部の項目その2



テーブル作成

```
|支店|販売数|  
|-|-|  
|東京|1,250|  
|大阪|980|  
|名古屋|570|  
|ニューヨーク|50|
```



支店 販売数

東京	1,250
大阪	980
名古屋	570
ニューヨーク	50

右揃えが基本

```
|支店|販売数|  
|-|-|  
|東京|*1,250*|  
|大阪|**980**|  
|名古屋|***570***|  
|ニューヨーク|50|
```



*(または_)1つ ← イタリック
**(または_)で挟む ← 太字
*** (または_)で挟む ← イタリック&太字
~~で挟む ← 取り消しライン

支店 販売数

東京	1,250
大阪	980
名古屋	<i>570</i>
ニューヨーク	50